

# 新規就農しました！

## 農業委員会だより

編集 農業委員会広報部会

第85号



野中 賢人さん・真希さん  
(前坂)

今年の春に結婚し、えのき農家に就農された野中賢人さん、真希さんを紹介します。

賢人さんは、前職の運送業から真希さんの実家が営むえのき農家に就農しました。フォークリフトの資格も習得し、力強い働き手となっています。現在は仕事にも慣れ、休日には家庭菜園を育て、秋にはキノコ狩りをしたいとのこと。また、都会では見られない朝夕に見る善光寺平の景色は格別とのこと。

真希さんは、兄妹の影響で小学生からバレーボールを始め、高校卒業後に海外へ留学経験もあり、お母さんに似てとても頑張り屋です。前坂地区久しぶりの新規就農者として期待しています。

(小池俊治 農業委員)



柳澤 安広さん  
(横倉一の三)

柳澤安広さんを紹介します。

自動車ディーラーに整備士として入社し、資格を取得後は工場長も務めました。が、ご両親の高齢を機に就農されました。現在は、両親と共にプラム70アール、りんご40アール、さくらんぼ20アールを栽培。さくらんぼは、直売やさくらんぼ狩りにも取り組み、販売にも力を入れています。

「自分で作った果物が消費者に届くと思うとやる気が出る。」と農業の魅力を語り、今後もプラムを軸にさくらんぼの販路拡大も目指しています。地域農業を盛り上げる担い手として活躍が期待されます。

(小坂勇二 推進委員)



上田 智巳さん  
(湯河原)

上田智巳さんを紹介します。愛知県出身でスキーを愛したために訪れた山ノ内町で農業に興味を持ち、町内を巡る中で横倉地区にたどり着きました。前職を退職し、今年の4月からりんご栽培を始めた新規就農者です。ゼロからのスタートなので苦労も多かったそうですが、現在はすっかり地域の一員として朝早くから夕方まで作業に励んでいます。現在は40アールほどの園地を管理し、今後は桃の栽培にも挑戦して面積を広げたいとのこと、将来が楽しみです。

(齊藤蝶次郎 農業委員)



畔上 晃太郎さん  
(宇木三)

畔上晃太郎さんを紹介いたします。今春、農業大学校を卒業し、家業を継ぐため就農されました。現在はご両親と共にりんごなどどうの栽培に取り組んでいます。「大変だけれどやりがいがあります。また、わからないことも多いですが、色々学んで吸収していきたい。」と抱負を語り、前向きな姿勢が印象的でした。今年二十歳と若く、地域の将来を担う貴重な存在です。これからの成長と活躍がとても楽しみです。(関 正秀 推進委員)

## 東部地区の農業の現状と課題、そして展望

東部地区の農業は、沓野エリアの広大な水田と上条エリアの果樹園が地域の特色を成し、長年にわたり全国の市場や消費者から高く評価されています。特に、シャインマスカットを中心に、したぶどう栽培は、地域経済において強力な推進力となり、後継者不足などの課題を解決する一助となっていることは確かです。

沓野エリアの水田地域では、将来に対する不安を抱えている農家が少なく、施策が急務です。次世代へとつなげるためには、基盤整備などの環境整備や、さらにはIT技術を積極的に導入した水田・果樹園の生産性向上を図ることが重要な課題として浮き彫りになっています。今後の展望としては、東部地区に限らず、山ノ内町全体を観光地として「活かし」「利用する」ための戦略的なアプローチが求められ、地域資源を最大限に活用し、農業と観光が一体となった形での発展に注力していくことで、持続可能な地域振興が可能となると信じています。

(山口 剛 推進委員)

## 北信州農村女性のつどいに参加して

8月26日、志賀高原総合会館98ホールにて、「北信州農村女性のつどい」が開催され、今年は地元での開催となり、実行委員として企画段階から携わり、参加させていただき

ました。

このつどいは、毎年北信地域の女性農業者を中心に、農業関係者が一堂に会し、先進的な取り組みや活動事例を学ぶ機会として開催されています。フリーマーケット、東京科学大学管弦楽団の生演奏で150名の参加者をお出迎えしました。

今年のテーマは「農業と観光」第一部では、「野沢温泉のざわな蕪四季會社」と中野市の「北原丸徳農園」から、ユニークな工夫を取り入れた観光農園の事例発表がありました。第二部では、町内で活躍する「ホテル豊生」、「米屋のおにぎり結や」、「湯田中洪温泉郷女将の会ゆのか」から宿泊と農業体験、小学生との食育、地元野菜を取り入れたメニュー、そして町の魅力を盛り上げ、おもてなしの心を伝える活動が発表されました。



参加者それぞれが工夫した取り組みと今後の課題について考える貴重な一日となりました。

(渡辺輝子 農業委員)

## 地域計画

### 何から始めればいい？

地域計画は、10年後、私たちの地域の農業をどんな農業にしていきたいか、大切な農地をどう守り次の世代に引き継いでいくかを、地域の農業者の意見をもとに取りまとめたもので（目標地図）、多くの人の協力がなければ計画は実現できません。地域計画の実践に向け、時間と労力をかけ本当に実現したいことは何かをもう一度みんなで考え確認していきましょう。

## 令和7年度 農地パトロールを終えて

農地パトロールへのご協力ありがとうございました。高齢化や転出によって田畑の管理ができなくなり、荒廃地が増加している現状が続いています。こうした中で、昨年と比べて、農地の草刈りや管理が行き届いている農地が増えていることを実感しました。これは、周囲に迷惑をかけないよう配慮している証拠だと思いますが、依然として作物を育てるところまでは至っていないのが現状です。



今後は、こうした田畑を借りて作物を栽培してくださる方々が増え、荒れた土地が少しでも減少することを切に願っています。そのためには、私もできる限りのお手伝いをさせていただきます。

(小林 貴 農業委員)

## 長野県最低賃金

令和7年10月3日から

時間給 998円



1,061円

に改正されました

これにより山ノ内町農作業標準労賃も1,061円（時間額）に改定されました。

## あとかき

今年も「実りの秋」を迎えました。振り返ると、春の遅霜・降雪、夏の猛暑・干ばつなど、農業を営む者にとっては厳しい環境でした。被害にあわれた皆様には心よりお見舞いを申し上げます。気候変動による厳しい環境の中でも日々愛情を注いだ作物は、しっかりと実ってくれました。収穫というご褒美をいただき、自分を褒めてください。暦は師走を迎えます。取り秋の終盤、もう一息の頑張りです。体の健康に「実りの秋」をいただき。秋の味覚の特徴である「甘味」は冬を乗り切るためのエネルギー源になると言われています。感謝とともにその自然の恵みを享受し味わいたいと思います。

農業は国の礎です。自然を相手に種まきから収穫まで、時間・労力を要する農業は人間として大切なことを教えてくれます。この事を胸に新しい年を迎えたいものです。

(白鳥金次 農業委員)